まい進したい」と述べた。

来賓を代表し赤松広隆農林水産大臣、松下忠洋経済産業副大臣がそれぞれ祝辞を贈った。参席した国会議員紹介のあと、懇親に移った。

なお、賀詞交歓会の前に行われた新春講演会では東京大学大学院経済研究科の伊藤元重教授が「経済の行方とビジネスモデル」と題し講演した。

自分が変わる姿勢で

日冷倉、東冷倉が新年会

㈳日本冷蔵倉庫協会、東京冷蔵倉庫協会は1月13日、東京都千代田区の都市センターホテルで新年賀詞交歓会を共催。

冒頭、両協会を代表してあいさつに立った日本冷蔵倉庫協会の垣添直也会長は「新年の新聞を読んでいると、ことしのキーワードを読みとることができる。未来・共生・成長だ。この三つに共通するのは、前を向いていく姿勢」

「小売業界のデフレは必ずわれわれにも影響してくる。こうしたときにシケが収まるのを待つのではなく、自分が変わっていくという姿勢をもちたい。大きな変動、構造変化が起きているが、自分を積極的に変えていこう」と強調した。

両協会を代表し、あいさつする垣添会長

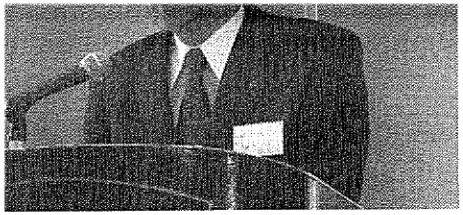
来賓を代表して国土交通省政策統括官付参事官の尾関良夫氏が祝辞を述べた。

東京冷蔵倉庫協会の楡敏秀会長が「ことしは寅年だが、ちょうど12年前というと加工品入庫の増加が顕著となり、原料保管が主であったわれわれの業務が大きく変わった。ことしは都内の大規模施設におけるCO2削減義務など、実質的な環境元年のスタートといえる。われわれは旧来の保管事業にとどまらず、変化に対応していく必要がある」と述べて乾杯の音頭を取り、祝宴に入った。

強い企業を目ざす

MCグループが新年会

㈱ミートコンパニオングループ（阿部徳次グループ会長）は、1月9日正午から立川市内のパーティー会場「ベースボール」で、平成22年MCグループ賀詞交換会を開催し、グループの社員約200人が参集した。



単価減について言及する櫻田会長

阿部昌史社長は「年末年始の商いは、おかげさまで潤沢な仕事をいただき、取引先および従業員の皆さまに感謝したい。昨年の漢字は〝新〟が選ばれた。新しいものが生まれるときは何かが犠牲になるが、その分、新しいことが生まれるので期待したい」

「低価格志向で安売りを行っているが、どこか度を越している。PB商品も安値の追求に終わり、本来のPBから外れている。デフレ社会という厳しい中で、不況だからこそ強い企業にならねばならない。働く従業員の皆さまが前に向かってエネルギーのもてる企業でありたい」

「前向きな強い企業を目ざす」と阿部社長

「グループの日本カイハツミートの新工場も12億円を投資して来春には完成するので、2010年は昨年以上に前向きな強い企業を目ざし、売り上げも大幅に伸ばしたい」とあいさつ。

また阿部会長は「良いニュースは少ないが、不況から脱出するために、不況をマイナスと取らずにプラス志向で大きく脱皮して内容の良い安定した企業にすることを約束する」と力強い決意を表明。

このあと、㈱ニホンカイハツミートの新役員紹介で、植村光一郎取締役の常務昇格、葉山泰弘氏（ミートコンパニオン管理本部部長）と小石伸一営業本部部長がそれぞれ取締役に就任したことが発表された。また、平川一美取締役は相談役に退いた。

乾杯の音頭は、新たに常務に就任した植村取締役が「新たな秩序が始まろうとしているが、この機運を捕まえてMCグループにとって大きな飛躍の年としたい」と発声して祝宴に入った。

情報添えて拡大を

牛若商事が新年会開く

ホテル・レストラン業務用卸の牛若商事㈱（京都市中京区、森村義明社長）は1月12日、京都市下京区の京都東急ホテルで新年会を開催。仕入れ先を含む100人が集い賀詞を交歓した。

田村和史専務の司会であいさつに立った森村社長は「8月決算は前年度に続き増収増益を達成できた。これもお集まりいただいた仕入れ先のおかげだと感謝している」

「新しい政権の誕生で新しい産業が誕生しようとしている。畜産と農業が連携して新しい産業を創出できるよう、行政の活動を温かく見守りたい。食肉の分野は比較的に安定して推移している。仕入れ先の情報を添えて納入先へ提案し、満足していただきたい」と協力を要請。

社員を代表して井原栄一常務が「厳しい中、良質な商品を安定した価格で大量に納入していただいたことにお礼をいいたい。おかげで既存の取引先との信頼関係は強固になり、新しい納入先も拡大できた」と謝意を述べた。

来賓としてみずほ銀行京都中央支店の中島友博長、米国食肉輸出連合会（USMEF）の原田晋シニアディレクターが祝辞を述べ、京都中央信用金庫市場支店の大原支店長の発声で乾杯して祝宴に。

新年会で仕入れ先に謝辞を述べる森村社長

歓談中に乗松良司常務が来賓全員を紹介しながらスピーチ。ジャズバンド演奏やゲーム、アトラクションで楽しんだあと、森村義幸常務の一本締めでお開きとなった。

合同で「新春の集い」

料飲関係5団体が開催

㈳全日本司厨士協会など料飲関連5団体は1月14日、東京都虎ノ門のホテルオークラ東京で「料飲関連5団体合同・元気の出る新春の集い」を開催した。

今回が初の試みで、全日本司厨士協会、㈳日本プライダル事業振興協会、全国宴会支配人協議会、㈳日本ホテルバーメンズ協会、㈳日本ソムリエ協会の会員らが集い、記念講演会および交流会を行った。

交流会の冒頭、5団体を代表して日本プライダル事業振興協会の野田兼義専務理事が「この5団体合同で新年会を開催するというのは初の試み。昨年は厳しい情勢であったが、ことしは皆で力を合わせ、料飲業界を盛り上げていこう」とあいさつした。

来賓として出席した経済産業省商務情報政策局サービス産業課の藤本康二課長、㈳日本ホテル協会の中村裕会長が祝辞を述べ、全国宴会支配人協議会の清原當博会長が乾杯の音頭を取り、祝宴に入った。